

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.156

SABS Journal No. 156

発行日：2025年2月15日

URL：[バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル \(sabsnpo.org\)](http://sabsnpo.org)

毎年の事ですが年末から新年に掛けて何かと世話しく気が付くともう2月になっているという感じは筆者(檜山哲夫)だけの'個人的'感想でしょうか?個人的と言えばこの年末年始はこれまでに無く知人、友人、親戚そして恩師まで大勢の人達の訃報が続きました。終戦の年昭和20年(1945年)に小学校(当時は国民学校)に入学した高齢の筆者は知人友人にも高齢者が多いのでこれからも訃報が増えそうです。いきなり個人的な悪い話で大変失礼致しました。

皆さまはお元気でお過ごしのことと思います。関東地方は例外的に晴天が続きますが、全国的には、先月も触れたJPCZ (Japan-sea Polar air-mass Convergence Zone、日本海寒帯気団収束帯)が大暴れし続けています。北朝鮮の白頭山から吹き下ろす寒風が日本海の高温暖海水から蒸発する大量の水蒸気を冷やし出来た大量の雪が猛烈な吹雪となって、北陸、東北、北海道だけでなく、山陰から北九州まで襲いました。そして鹿児島県や四国など雪に慣れない地方にも降雪があり大混乱です。慣れている地方でも有史以来の深い積雪で災害が発生しています。“見ろ。地球温暖化はウソだったろう!”とあの人物がいったとかいわなかったとか。海水温が異常に上昇したのも、北極海の氷が溶けて偏西風が蛇行したのも全てこの気候変動(温暖化)のためなのですが。

一方、雪どころか雨も降らない太平洋側特に関東では各地で火事が続いているし、世界でも各地で山火事が猛威を振るっています。Los Angeles の郊外では東京23区くらいの面積が灰になったあとようやく鎮火したそうですが。気候変動の原因となる石油やメタンの採掘が盛んな州で多くの票を集めて当選したあの Antiscience 人物は先月20日に遂に大統領に就任しました。アメリカでは、閣僚は選挙で選ばれた議員ではなく、大統領が自由に任命出来るので既にいろいろと異常な閣僚人事が報道されています。今回任命された閣僚には殆ど怪しい人物ばかりです。一番気になるのは Elon Musk という人の「政府の無駄を省く」という省庁 Department of Government Efficiency (DOGE)なる組織です。国家予算の大幅削減をやるということで、前から心配していたのですがやはり NIH 予算に手をつけ始めました。NIH (National Institutes of Health) は、日本の厚生省とは桁違いの予算と機能を持ち、研究施設の規模は膨大で、昔から日本の研究者も沢山研究員として入所しています。そしてアメリカ国内だけでなく外国の研究所、大学にも多額の研究費を支給しています。そしてこの‘研究費’には研究者、研究助手 (Technician、大学院生、Postdoc など) の給料まで含んでいるのです。Nature 記事によると、基礎研究どころか病例や薬効などの報告発表の予算まで削ろうとしているようです。直ぐには役に立たない基礎研究などは彼らの言う“無駄”の最前線です。アメリカ国内だけでなく世界中のバイオ研究者に壊滅的な被害が憂慮されます。さすがに22の州で裁判所の判事と大学や研究所が“この政策は違法である”と差し止めを要求し始めました：[‘Devastating’ cuts to NIH grants by Trump’s](#)

[team put on hold by US judge \(nature.com\)](#). A US judge has blocked a policy that would have, beginning today, slashed billions of dollars of funding annually for US research institutions, including universities and hospitals. The action is in response to lawsuits filed by 22 US states and a coalition of universities earlier today contending that the policy was illegal and would cause “cutting-edge work to cure and treat human disease” to “grind to a halt”. Muskは外国生まれなので憲法上は次期大統領になる資格はないのですが現大統領は憲法をも書き変えかねない人物ですし野心が見え見えます。世界を見ると長く政権に居る人物が憲法を変えて任期を延ばすことで民主政治が独裁政治に変わるのを我々はこれまで何度も見て来ました。恐ろしいことです。Twitterを買収し、名をxに変えると同時にアルゴリズムも変え、それによって極右活動家たちの発言を拡散させ、現大統領当選を実現させた張本人です。既に DOGE の若いエンジニアたちが政府の機密情報にアクセスして危険な独裁構造の構築に掛かっているとの話もあるようです。

今のところ筆者の ‘wishful thinking’ (希望的観測) に過ぎませんが、それでも最近少しずつ ‘ほころび’ が始まっているように見えます。まず‘関税’という諸刃の剣です。多くの経済専門家がこれにより今でも大変なアメリカのインフレによる物価の高騰が急速に進み、投票した庶民が自分たちの過ちに目覚めるのではないか。ホコロビが見えはじめると “規制緩和” と聞いて摺り寄った SNS 経営者や企業人達もライバル同士のにらみ合いが出たり、少しずつ離れつつある兆候が見えてきました。

そして遂にはノーベル平和賞が欲しくてウクライナ戦争を終わらせると言いました。前号では「次期大統領は‘戦争は嫌いだ’と言っているとウワサされていて、“戦争はお金のムダだから止めろ”ということらしいのですが、理由は何であれ戦争を止めることは素晴らしいことです」と書いてしまいましたが、最近是非常にロシア寄りの声明を出しました。早速ウクライナ大統領がこの‘頭越し’の話にはっきり No と言いました。Gaza 地区の解決策も余りにもイスラエル寄りな‘奇策’なので世界中から非難を浴びています。

USAID というアメリカ政府機関があります <https://2017-2020.usaid.gov/> : 専ら‘世界の警察’と言って軍事力で世界を牛耳っている感のあるあの国にこうした貧困国の人道的支援のために毎年 6 兆円もお金を支出している機関があることを筆者は恥ずかしながら今回始めて知りました。何と 1961 年という昔に出来ていたのですが。これをムダとして今切ろうとしているのです。

「本当のムダである戦争は相変わらず続いています」と前号に書きましたが、「極端に深刻な“人災”である戦争は終わるどころか益々深刻化しています」とまた書かねばならないのは非常に残念です。‘平和’は‘戦争をしないこと’という誠に簡単なことです。今年 2025 年は日本が終戦を迎えてから丁度 80 年目です。我が国はこの 80 年他国と戦争をしませんでした。“この誇るべき平和を世界に広げ、地球上どこにも戦乱がない平和な世界が一日も早く来る事を切に祈るばかりです”と前号にも書きましたが何度でも繰り返します。我が国も含め人類の歴史は戦争の歴史でした。島国の日本では全て‘内戦’だったのです

が、明治10年(1877年)の西南戦争以後内戦は無くなりました。ところがその後十数年で日清、日露の二つの‘外戦’で勝ってしまったため、軍部という暴力装置がどんどん力を着け遂に軍部独裁に至って最終的には超大国を含む連合軍に敗れ終戦となったのが1945年なのです。

現在の我が国の政治情勢は大げさに言うと世界一民主的です。与党が過半数を割ったためいろいろ国民生活に関係のある議題で国会論議が活発になっています。未だ予算案が通りませんが、民主国家の国会で議論できるのは当たり前のことです。良い方向に落ち着くことを願っています。国会論議と関係があって気になっているのは関西万博です。新技術とか外国との通商とかこういう催しの良さは分かるのですが当初問題になっていたIR(Integrated Resort、総合娯楽施設)は全く論議されて居ません。調べると「カジノを含めたIR」という語句がやたらに出てきました。折しもインターネットで出来る外国のカジノで‘身を滅ぼす’人達のニュースが溢れています。あの大谷翔平選手の通訳などの有名人で分かったように、依存症は後天的精神病で犯罪に繋がります。日本には以前から競馬、競輪、競艇や宝くじなどの公営賭博の他、パチンコのような公認賭博、非公認だけど滅多に取り締まられない“載せ麻雀”など今でも続いています。そしていわゆる隠れバイトに引かかる若い人達は「賭博の借金で首が回らなくなったので」と言っています。公認カジノはこうした人達を増やすと言う議論は当初盛んにあったのですがどうなったんでしょう。マスコミも国会も議論しなくなっている事が気になるのは筆者だけでしょうか？

さて医学とバイオの話題いくつか:

1. チョコレイトが健康にいいとよく言われるようになりました。このスイスのCohort研究では競争選手に1ヵ月ほど70%チョコレートを食べさせたところ、平均で数パーセント心機能の向上が見られたという報告です [PubMedCLOUD \(carenet.com\)](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35812342/)
2. 植物同志の通信法について
 Ca^{2+} <https://scienceportal.jst.go.jp/gateway/videonews/m230001007/index.html>
 Ca^{2+} が昆虫に齧られるなどの植物体内での“災害”を探知して伝えるホルモンであるが、これを体外に発信するのがあの故畑中顕和先生の発見した植物の青臭い香り青葉アルデヒド (trans2-Hexanal) です。この動画は埼玉大学の院生が Ca^{2+} で発光するタンパク質を組み込んだシロイヌナズナを使って別個体が傷ついたことを放出(発信)した青葉アルデヒドを受け取って Ca^{2+} イオンが体内を伝わっていく様子を発光タンパク質の発する蛍光を使ってきれいにとらえている動画です。
3. スタチンによる認知症治療 [スタチンと認知症リスクに関するメタ分析、最も顕著な予防作用が示された薬剤は | 医師向け医療ニュースはケアネット \(carenet.com\)](https://www.carenet.com/news/2022/06/20220614-statin-cognition/)
スタチンは永年ノーベル賞候補として挙げられていた遠藤章氏(昨年6月、90歳で逝去)が発見したコレステロール合成制御剤など広く使われているが、副作用も報告されている薬品である。予防にも効くのではという報告です。

前回の定例会は新年会も兼ね、忘年会の前々回と同じくテーマは決めず、出席者全員の近況報告を中心に自由討論という形にしました。結果、実に様々な話題が出て5時近くまで盛り上がりました。まず江の島の初参りに行って転んでしまったがお陰で御本尊の弁天様を拝むことが出来たという松坂さんのお話から始まり、トランプ大統領がケネディ暗殺の未発表調書の公開を命じた話が出て、「何故なんだ」という話。アメリカでは昔から **Conspiracy theory** (陰謀説) というのが流行っていたこと。未だに“公式発表はウソと言っていて真相は隠されている”というのがケネディ伝説の一つです。いわゆるデマです。それが以前は全人口の中の一部だけで広がっていたが、最近では SNS でトランプ一派の極右思想家たちが広げトランプ当選になったのだが、彼らの主張が新(真?)情報として出てくるのではと期待しているらしい。インフルエンザに罹ったけど割と軽く済んだ話。それから唯一現役の若い田中さんは会社が新しく始めたオーディオ関係のプロジェクトの話で盛り上がりました。3次元にマイクを配置して録音したものを同じく3次元に配置したスピーカーで再生するシカケでシステム構築を進めているというお話で、関心のある人たちが多くぜひ近いうちに話題提供をお願いしたいという声がありました。また埼玉県のみさきたま古墳の話を中心に住む武野さんが紹介。マガ玉とか前方古円墳の起源や鉄剣の文字など古代日本と朝鮮の関係から先進渡来人の大きな影響、日本語の起源にまで話題が広がりました。また白内障手術をやった人が多く、若い時にやった人は簡単だったけど、高齢になるといろいろ大変だという話。でも間違いなく良く見えるようになるようですなどとこれまた大変に盛り上がりました。食の話も沢山出ました。日本食の **Healthy** さとか外国の食事の野菜不足など。水の話。外国では生水が飲めない国ばかり。水道水が飲めるアメリカでも硬水が多く、お茶を淹れると黒くなる話。それから **ChatGPT** を使っているいろいろなカタカナ語を調べた小林さんのお話。カタカナはもともと平安時代ごろ漢文の読み方(音読)を伝えることで考えられたものだそうですが、明治になって欧米の言葉を表すために頻用されるようになりました。今や無数に出て来ていて改めてビックリ。そしてオトナ語なるものが紹介されました。糸井重里という評論家が10年以上前に作った定義らしいですが、大人が使う言葉ではなく特定の集団のなかでだけ通用する語句群(アメリカで言う **in-house words**) のことで、カタカナ語が主なものだそうです。ネットで調べると糸井氏の古い著書ばかり出てきました。そして化学史家でもある松本さんが戦時下ペニシリン開発の偉業について新たに発見された資料をもとに3部に渡る詳細な論文の内容について紹介して頂きました。三島には森永製菓(当時は森永食糧工業に改称)の最初のペニシリン生産工場があったり、また手伝ったのが三島高等女学校の生徒だったこと、戦後は東洋レーヨンが日本で初めてタンク培養で生産し、その資料が三島にある東レ総合研修センターに保管されているという縁もあり、三島市立図書館で資料の展示と松本さんの講演(講演要旨を配布)が翌日予定されているというお話でした。

さて次回の定例会も再びこうした自由討論にしたいと考えています。話題は特に定めません。例えば、トランプ時代のバイオテクノロジーの基礎研究はどうなるのか。バイオ関係の術語めいたものがマスコミや広告での間違った使い方、例えば酵素。水素水とかグルコサミン、コンドロイチン、コラーゲン薬剤などほんとうに効くのか。埼玉県で起きた道路陥没事件に関連しインフラ施設の老朽

化と対策。健康法とか病気の話、など何でも結構です。面白いお話をお待ちしています。USBをお持ち頂き話題提供して頂けると幸いです。短いお話で結構ですのでよろしく願いいたします。

なおもし時間が余れば昨年放送されたNHKスペシャル“封じられた第4の被爆”というビデオを上映させていただきます。

当会の発行する「医学と生物学」はエッセイと総説も掲載しています。そしてこれを「医学と生物学」誌に掲載出来ればと考えています。

これまで定例会では他にも興味深い総説の発表が多数ありました。これらの内容を著者の方々に和文要旨として纏めて頂くことをお願いし「医学と生物学」誌に掲載したいと思っています。既に堀江さんから原稿をお送り頂き準備中です。それらは英文化した要旨も併載することでこのインターネットジャーナルの‘国際化’を諮りたいと思っています。皆さまのご協力をお待ちしています。

バイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）第129回 定例会のお知らせ

日時：2025年2月22日(土) 13時～17時

場所：八雲クラブ(東京都立大学同窓会) 渋谷区宇田川町 12-3 ニュー渋谷コーポラス 10階

話題：自由討論など

定例会会場八雲クラブへの道順：

渋谷駅ハチ公脇大交差点を渡り井の頭通りの坂道の右側を東急ハンズの看板を目指して登り、ハンズの手前で右手の急坂を登り、坂の途中で新しいパルコビルを上右に見ながら左に曲がりまた少し坂道を登り切った所で左側に建つ古い高層マンションがニュー渋谷コーポラスです。入口の短い階段を降りたところでエレベーターに乗り10階で降りると直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

定例会は、原則として毎月第4土曜日に開催しています。7月と8月と11月はお休みです。

会場の都合で第4土曜日ではなく他の土曜日となることがありますがその場合には予めお知らせします。11月はお休みです。そして12月の会は第1土曜日を原則としています。

なお3月は22日(土)、4月は26日(土)の予定で既に予約済みです。

バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)は、故奥山典生先生(東京都立大学名誉教授)によって2007年に創立され、SABSジャーナル第1号はその年の10月11日に発行されました<http://sabsnpo.org/journal001.pdf> 以来、奥山先生は2015年の第73号(5月17日発行)まで執筆されて居られました。先生はそのわずか2日後の5月19日、訪問先で倒れられ、救急搬送入院、6月13日にはご逝去されてしまいました。混乱の中、当時の理事たちで今後について話し合った結果、その年の6月19日には何とか第74号をまとめることが出来ました。以後、本ジャーナルは引き続き定期的に発行され、今回は第154号となります。SABSジャーナルでは、奥山先生が様々な分野にわたる蘊蓄を毎号ご披露されて居られました。先生には全く及ぶべくもありません。

せんが、現在は蘊蓄もどきの話題を筆者(檜山哲夫)が書いています。ぜひ読者の皆様からも蘊蓄などのご投稿をお待ちしています thiyama@athena.ocn.ne.jp。

当協会のもう一つの大きなプロジェクトはインターネットジャーナル「医学と生物学」の発行です。緒方富雄博士が1942年に創刊した総合学術雑誌ですが、2013年に休刊となりました。それ以来、奥山先生はこの雑誌の復刊に努力されて居られました。しかし残念ながらご存命中には実現は出来ませんでした。我々後継者は川崎博史理事を中心に努力し2018年にインターネットジャーナルとして復刊することが出来ました。下記ウェブで御覧になれます:

<https://medbiol.sabsnp.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/view/52>

最新号は間もなく発行予定の165 (No1) です: [165 巻 1 号 \(2025\) | 医学と生物学 \(Medicine and Biology\) \(sabsnp.org\)](#)

また創刊号からのバックナンバーも収録しており、下記ウェブで閲覧出来ます:

<https://medbiol.sabsnp.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/archive>

このSABSジャーナルは、バイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で、先生の広がった人脈に改めて驚いています。ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。当SABSジャーナルのホームページ https://sabs.sabsnp.org/sabs_j/ ではジャーナルの最新号を含めたバックナンバーが収録してあります。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたら会員である必要はありませんので筆者のアドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp に直接お知らせください。また配信停止、新規会員登録、アドレス等の登録情報変更等のご希望やウェブサイトに関するご意見もメールでお寄せください。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2 URL: <http://sabsnp.org>

理事: 荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川 哲朗、川崎 博史、檜山 哲夫

監事: 堀江 肇

ネット管理: 川崎 博史、田中 雅樹